

福島の 児童文学者

8

『額賀 誠』

いわき市に生まれる

額賀 誠（ぬかが まこと）は、明治三十三年九月三十日石城郡四倉町（現いわき市）に生まれる。父襄は、明治二十三年に四倉町で開業した医師であり、誠は八人兄弟の四男として育った。日本医科大学を卒業後、一時函館市立病院に勤務したが、間もなく病氣になり帰郷、昭和十二年に双葉郡広野町で医院を開業した。

「県重筆協会」初代会長

額賀の名は、福島県の重筆を推進したスポーツ界の著名人として、知られている。誠自身はパーペルを握ることとはなかつたけれど、選手としても活躍した弟の任（つとむ）と共に、昭和二十三年九月「福島県ウエイトリフティング協会」をいわき市に設立し、初代会長を努め、多くの有名選手を育てた。その中には誠の三人の息子、馨示（いさお）・静思・厚義も含まれている。馨示と厚義は、後に県の国体監督

をも努め、本県の重筆に尽力した。静思も、高校生時代に三度国体に出場し、三年連続入賞の偉業を成し遂げている。また、その肉体美でミスターコンテストに入賞し、後に芸能界に入り、倉多 爽平（くらた そうへい）の名で活躍している。

童話詩人としての誠志（せいし）

誠は、誠志（せいし）というペンネームを持つ詩人・童謡詩人であった。誠志は、鈴木三重吉の「赤い鳥」の同人となり、作品を発表しながら、新しい童謡運動を興す童謡詩人であった。その彼の名を一躍有名にしたのは、当時のJ O A K（現NHK）のこども番組「幼児の時間」に放送された、「とんぼのめがね」の歌であった。この作品は、この番組のために昭和二十四年の夏頃委嘱されたと言われている。

とんぼのめがね

額賀 誠志 作詩
平井 康三郎 作曲

一、とんぼのめがねは

水いろ めがね

青い おそらを

とんだから とんだから

二、とんぼのめがねは

ぴかぴか めがね

おてんと さまを

三、とんぼのめがねは

赤いろ めがね

ゆうやけ ぐもを

とんだから とんだから

この歌は、「とんぼのめがね」を「めがね」に見たて、それを通して秋の風景を歌ったものであった。後に教科書にも採用され、現在の子供たちにも歌いつがれている。そのほかにも、「シグナルサン」・「山のおいしやさま」・「たけうまごっこ」が有名である。また、J O H K（現NHK仙台放送局）を拠点に行われた、「とうほくうたのほん」の放送にも投稿している。その作品は、「たにし」・「小馬の鈴」・「春はどこから」・「筆の花」の四作品である。この番組は、「東北の子どもたちに東北の人が作詩・作曲した歌を与えたい」と企画されたもので、並行して楽譜集も出版されていた。

筆の花

額賀誠志作詩

草川 信作曲

一、つんつん土筆は筆の花

いついつ描いた 青空に

ほんのり白いお月さま

二、あれあれ蝶々が きょうもまた

花にとまつて ひそひそと

なにを描くのよ きいてる

三、つんつん土筆は筆の花

ゆうべになれば 青空に

きれいな星を 描くでしょう

誠の交友関係
このような活動の中で、誠の交友関係

係は広く、文人との関りが多かった。

西条八十や野口雨情の他にも、『地中海』という作品で第四回芥川賞を受賞した作家富沢 有為男（とみさわ ういお）や『風・光・木の葉』を出版している詩人大木 惇夫（おおき あつお）、『夕焼小焼』を作曲した作曲家草川 信等の友人関係は有名である。その中でも草川 信との親交は厚く、『東北歌の本』の中の「ねんねんころりん」などは、広野の額賀邸のこたつの中で作曲したと言われている。また、草川氏が愛児を戦争で亡くした時は、「閑古鳥」という詩を捧げている。

このように、額賀 誠は福島県の重筆に貢献したばかりではなく、童謡詩人としても子供たちに数多くの作品を残し、昭和三十九年二月十一日行年六十三歳でこの世を去り、海の見える丘で眠っている。

「とんぼのめがね」がずっと子供たちに歌いつがれていくように、誠志の他の作品も、そして業績もずっと語りつがれていつてほしいものである。

参考文献

・スポーツ人風土記（道と書院編・刊）

・ふくしまのうた（内海 久二著）

・福島の人脈（朝日新聞社編）

・福島県人物風土記（暁教育図書編・刊）

・とうほくうたのほん（仙台中央放送局編・刊）